

# 指標確認シート

【資質・能力発展期】



愛媛県総合教育センター

# —目次—

観点	キーワード	ページ
人間力	学び続ける向上心	1
	使命感・倫理観	2
	豊かな人間性	3
	人権感覚・人権意識	4
	識見・教養	5
	心身の健康	6
実践的指導力	省察力	7
	教科等指導力	8
	ICT 活用能力	9
	学級経営力	10
	生徒指導力・教育相談力	11
	特別支援教育実践力	12
	えひめ人材育成力	13
組織力	組織貢献力	14
	学校安全の意識・危機管理能力	15
	協働性・同僚性	16
信頼構築力	対人関係力	17
	地域と連携・協働する力	18

# 「学び続ける向上心」

社会環境の急速な変化、学校を取り巻く環境変化、大量退職・大量採用による年齢、経験年数の不均衡による弊害等により学校が抱える課題は多様化・複雑化しています。社会や国の変化を踏まえ、教員が高度専門職としてそれらの課題に対応していくためには、学び続ける向上心を持ち続けることが必要です。

基盤形成期

～ 資質・能力発展期

指標

常に目標を持ち、その実現に向けて、学び続ける。

社会の進歩や変化のスピードが速まる中、子どもたちの生きる力を育むためには、教員は教職生活全体を通して、自主的に学び続ける力が必要です。そのためには、年齢や経験年数に関わらず、自分で課題を見付け、常に新しい目標を持ち、課題を解決しようとする姿勢が重要です。

〔具体的な姿〕

- 社会、環境の変化を的確につかみ取り、それらを踏まえた適切な教育活動を実践している。
- 校内、校外研修など様々な研修の機会を活用したり、自主的な学習を積み重ねたりしている。
- 学校内において、同僚の教員と支え合いながら、OJTを通じて日常的に学び合っている。
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善等、新たな教育課題に取り組んでいる。
- 資質・能力向上のため、長期目標や短期目標を設定し、その目標達成に向けPDCAサイクルを機能させている。



## ◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
キャリアステージに応じて求められる資質・能力を理解している。			
自ら学ぶ姿勢を持ち、授業改善や教育課題の対応に向けて、研修等に取り組んでいる。			
適切な目標設定を行うとともに、実践、評価、改善を通して、自らの資質・能力の向上に取り組んでいる。			

# 「使命感・倫理観」

教員は、教育公務員として「全体の奉仕者」であり、高い倫理観が求められます。また、教育基本法で、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」と定められているように、教育の目的の実現に向け、全ての教員が教育者としてのあるべき姿を深く考え、強い責任感を持って職務に当たることが求められます。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

使命感や責任感を持って教育活動に取り組む。

教育公務員として法令を遵守し、職務を遂行する。

教員は、児童生徒の人格形成や人生の在り方に大きな影響を与えます。このことに対する情熱と使命感、強い責任感を持つことは、教員にとって不可欠な資質です。児童生徒に愛情を持って接し、適切な言動が常にできるよう、教員としての自己の在り方を見つめていくことが必要です。また、児童生徒や保護者、地域からの信頼を得る上で、法令を守り、児童生徒の手本となるような規範意識を持つことも大切です。

[具体的な姿]



- 児童生徒の人格形成や人生に大きな影響を与える仕事であるという使命感と強い責任感を持っている。
- 教職への情熱を持つとともに、客観的に自己を見つめ、教育者としてのあるべき姿について深く考え、自己研鑽をしている。
- 公平かつ愛情を持って児童生徒と接するとともに、一人の大人として、児童生徒の手本となるような言動をしている。
- 教育公務員としての職務上の義務と身分上の義務を遵守し、規範意識を持って職務に当たっている。

## ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
教職への情熱を持つとともに、自らを客観視し、理想的な教員像の実現に向け、自己研鑽をしている。			
愛情を持って児童生徒と接し、児童生徒の手本となるような言動をしている。			
教育公務員として、「すべきこと」「してはならないこと」を明確にし、職務に当たっている。			

## 「豊かな人間性」

愛媛県は、求める教師像として、「子どもが好きで、未来を担う子どもたちを育成しているという誇りと気概を持って教育に当たることができる人」、「愛顔（えがお）にあふれ、あいさつを大切にしている人」、「仕事にも人にも誠実に向き合う人」の3点を挙げています。学校教育を巡る様々な課題への対応のために、優れた資質・能力を備えた魅力ある教師が必要とされています。

### 資質・能力発展期

#### 指標 地域の人々をも魅了する豊かな人間性を持つ。

よりよい教育活動のため、児童生徒や保護者、職場の同僚との関係構築だけでなく、学校に関わる人々との関係を築いていく必要があります。そのためには、自分が関わる周囲の人々に信頼され、巻き込んでいく、魅力的な人間性を身に付けることが求められています。

- [具体的な姿]
- 何事にも常に一生懸命な姿で取り組み、自分の言葉で、思いを伝え、「熱意を傾けている姿勢」を周囲に示し、多くの人々の心を動かすことができる。
  - 非常時でもパニックにならない冷静さや、自分や他人を感情的に判断しない客観性を持っている。
  - 周囲にいる人たちの強みを発見でき、自分がその人と協力するときに、どんなことを任せたら輝くのかをイメージすることができる。
  - チームを統率するだけでなく、チーム内にいい影響を与え、活気づけるムードメーカーとしての役割を果たすことができる。
  - 計画から実行までの過程をスムーズに進めるとともに、学校内外の資源を見出す広い視野を持ち、様々な企画を適切に実行する行動力を持っている。



#### ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
周囲の人々から、子どもたちを安心して任せることのできる信頼を得ている。			
周囲の人々と積極的につながり、幅広いネットワークを持っている。			
目標を達成するために、適切な関係者に働き掛け、相手の協力を引き出しながら仕事を進めている。			

# 「人権感覚・人権意識」

学校においては、人権尊重の理念を全ての教育活動の基礎におき、進路を保障する教育の実践、同和問題学習をはじめとする様々な人権学習の推進及び仲間意識に支えられた集団づくりを通して、人権の確立と差別解消に向けた児童生徒の実践力の育成が求められています。そのためには、教員自らが深い認識と実践力を身に付けていくことが大切です。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

多様な価値観を尊重し、常に人権感覚を磨くとともに、人権意識を高め続ける。  
人権問題に対する正しい理解や認識を深め、問題解決への確固たる姿勢を確立する。

全ての教職員が、差別の現実深く学ぶことを基本理念とし、同和問題をはじめとする様々な人権問題解決への確固たる姿勢を確立することが大切です。また、全ての児童生徒が喜びを持って参加できる学校づくりに努め、喫緊の課題である、いじめや不登校の未然防止や解決に向けて主体的に取り組む姿勢を確立することも不可欠です。

〔具体的な姿〕

- 人権・同和教育推進上の職務別の任務内容と課題を明らかにし、解決に向けて主体的に取り組んでいる
- 同和問題学習資料についての研究や分析をはじめ、研修会に積極的に参加するなど、差別解消に向けた自らの実践力を高めている。
- 教育活動において意見を取りまとめる際には、多様な考え方を受け止めながら、集団にプラスとなる解決策を模索する姿勢を大切にしている。
- プライバシーを巡る問題は、基本的人権に関わる重要な問題であると認識し、学校が保有する個人情報については適切に取り扱っている。
- 自らの発言や行動が学級や学校内の雰囲気をつくり出すことを意識し、定期的に振り返り、人権意識の高揚を目指している。



## ◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
学習資料の研究や分析をはじめ、研修会に積極的に参加するなどして、成果を日々の教育活動に取り入れようとしている。			
いじめや不登校の未然防止や解決に向けて、児童生徒の気になる様子や努力している姿について、同僚や保護者と情報を共有している。			
名簿、連絡網、写真の掲載、成績等、個人情報の取り扱いには十分配慮している。			

## 「識見・教養」

教員は教員である以前に、変化の時代を生きる社会人として必要な資質能力を十分に兼ね備えていることが不可欠です。そのため、教員は、広く豊かな教養を身に付け、社会人として適切に判断して行動することができるとともに、様々な情報が飛び交う時代で、それを正しい情報であるか判断しつつ、教育現場に反映できるような力が求められます。

### 資質・能力発展期

#### 指標 高い識見や教養、経験に基づいて判断する。

学校への社会の要請を自覚し、公教育や自校を取り巻く社会的・文化的状況を把握して、高い識見を持って教育活動に当たることが重要です。また、これまでの教員として経験を踏まえ、生じる恐れのあるリスクを考慮し、いくつかの選択肢を考慮しながら適切に判断、実行する力が求められます。

- [具体的な姿]
- 学校を取り巻く社会情勢や国や県の教育行政の動向も踏まえて、日々の教育活動に取り組んでいる。
  - 学習指導要領に基づいた学力観や指導方法を、これまでの経験に基づいて、学校や児童生徒の実態に合わせている。
  - 慣例に流されることなく、起こりうるリスクを事前に察知し、対応策を示している。
  - 事故等の突発的な事象に対して、過度に動揺することなく落ち着いて対応するため、マニュアル等を理解するなどの準備や心構えができています。
  - 生徒指導上の困難な課題に直面した場合でも、少しずつ前進するよう解決策を見出し、同僚と共に実行している。



#### ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
社会や教育行政の動向に注目し、学校が果たすべき役割を考え、日々の教育活動に反映している。			
事故等を未然に防ぐための対応策を考えるとともに、事故等が起きた場合にも落ち着いて行動するための準備ができています。			
これまでの教職経験を生かし、学校が直面する様々な課題に対して解決策を見出し、実行している。			

# 「心身の健康」

学校が抱える課題の複雑化・困難化に伴い、教員の勤務時間の長さや精神疾患による休職者の増加が指摘されています。充実した教員生活を送るための基盤は、心身の健康です。心身ともによりよい状態で子どもたちと向き合うことで、教育の効果も一層高まります。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

自他のワーク・ライフ・バランスを図り、心身の健康の維持・増進に努める。

教員の仕事は多忙であるため、仕事と生活が両立しにくい現実があります。やりがいや充実感を感じながら、日々の仕事と向き合うとともに、家庭生活の充実や自己啓発等に掛ける時間も大切です。限られた時間の中で効率よく仕事を進め、心身の健康の維持・増進に努めることが求められています。また、よりよい職場環境づくりのために、同僚の心身の健康にも気を配る必要があります。

[具体的な姿]

- 毎日の業務内容を明確にしたり、その日の退勤時刻を設定したりするなど、計画的に仕事を進めている。
- 健康の維持・増進のため、適切な運動、食事、休養、睡眠を十分にとっている。
- 適切に年休を取得するなど、家族や友人と過ごす時間や趣味に費やす時間を確保し、心身ともにリフレッシュしている。
- 同僚の仕事の状況にも気を配り、進んで声を掛けたり、助力したりする。
- 悩みを一人で抱え込まず、悩んでいる分野に精通している同僚に相談を持ちかけるなど、解決に向けて取り組んでいる。



## ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
健康の維持・増進を図り、教員としての仕事と、プライベートを充実させている。			
計画的に時間を使い、能率的・効率的に仕事を進めている。			
同僚の様子に気を配り、協力して仕事を進めている。			

# 「省察力」

教員として成長し続けるためには、学び続ける向上心を持つとともに、自らを振り返り、課題を明確にし、自己の成長に向けた手立ての構築につなげていくため力が必要です。日々の教育実践や教員としての在り方について深く顧みて、成果や課題を分析し、キャリアステージに応じた適切な目標を設定していくことが求められます。

## 資質・能力発展期

### 指標

## 客観的に自分を見つめ直し、今後のキャリアプランを立てる。

ベテラン教員として、これまでの教職経験で到達した高度専門職としての教員の在り方を総括し、後輩教員に伝承する役割が求められます。自分自身の更なる成長と学校全体の活性化に向けて、教科指導や生徒指導、校務分掌上の役割等、自らの職務を一つ一つ丁寧に振り返り、今後のキャリアアップにつなげることが大切です。

【具体的な姿】

- これまでの教職経験の中で構築された、教員としてのあるべき姿を明確にし、日々の教育活動を通じて後輩教員に伝えている。
- 自己の教育実践において、常に振り返りと改善を行い、より高い目標を持ち続けている。
- 新しい教育技術を積極的に取り入れ、自分の指導方法の幅を広げるなど、自らの可能性を高める取組をしている。
- 教員団の中心となって、学校全体の教育活動のPDCAサイクルを機能させ、学校教育目標の実現を図っている。
- 身に付けている自分の能力と今後の可能性を客観的に捉え、これからのキャリアの方向性と取り組むべき課題について明確なビジョンを持っている。



### ◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
これまでの教員としての歩みを振り返り、自身の経験を踏まえ、後輩教員に教員としての在り方について助言している。			
自己の職務や学校全体の教育活動において、その成果や課題の分析を行い、改善するための手立てを明確にしている。			
客観的な自己分析に基づき、今後のキャリアの方向性を定め、それに向けた取組を実践している。			

# 「教科等指導力」

教科とは教育の根本目的をもとにして、社会の要求を考え、そこから設定した教育目標に達するための多面的な内容をその性質によって分類し、いくつかのまとまりを作ったものです。教科は、学校教育の基本的な要素ですから、教科等指導力は、教育の目標を達成するための基本と言えます。

## 資質・能力発展期

### 指標

不断の授業改善を行うとともに、自らの教科等指導力の伝承に努める。

これまで、経験豊富な先輩教員から経験の少ない若手教員へと知識・技能が伝承されてきました。しかし、近年の教員の大量退職、大量採用の影響で教科等指導力の伝承が困難になってきています。経験豊富な教員の持つ実践的な教科指導力を、若手教員に伝承するとともに、若い教員の新しい感覚を取り入れながら、自らの教科指導力をさらに高めることが求められます。

[具体的な姿]

- 自らの専門領域に関する研究を深め、該当分野に関する知識や指導技術について精通している。
- これまでに培ってきた高度な専門性を基盤に、新しい指導技術を取り入れたり、教材開発を行ったりして、自己の指導方法を更新している。
- 教材研究の在り方を示したり、師範授業を行ったりするなど、自分の持っている教科等指導力を、経験の少ない若年教員に積極的に伝承している。
- 自校や地域の特色に応じたカリキュラム編成をするなど、校内の学習指導の質の向上のために中核的な役割を果たしている。
- 学校教育目標の実現に向けた授業改善を進めるため、高度な専門的知識を基に、同僚への適切な支援・助言をしている。



### ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
専門性をさらに高めるため、常に努力を続けている。			
人材育成の視点に立ち、高度な知識や熟練した技能を生かして同僚の力量形成を支援している。			
学校教育目標の実現に向け、中核的な役割を果たし、授業改善を組織的に推進している。			

# 「ICT活用能力」

学習指導要領において、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力の一つとして明確に位置付けられました。この情報活用能力の育成を図るため、各学校においてコンピュータ等の情報手段を適切に活用した学習活動を充実することや、校務の効率化に向け、情報手段を活用することが求められており、教員のICT活用能力の向上が重要な課題となっています。

資質・能力充実期

～

資質・能力発展期

## 指標

**校務の情報化など、教育の情報化の推進に積極的に参画する。**

校務の情報化の推進は、校務の負担軽減につながり、教師が児童生徒と向き合う時間や、教師の資質・能力向上に向けた研修の時間を増やすことが可能となります。さらに、児童生徒の様々な情報の共有、学校ホームページ等の活用による家庭・地域との情報共有に役立ちます。

[具体的な姿]

- 校務に関わる情報の電子化や共有化が図れるような仕組みを構築するなど、校務の情報化を推進している。
- 教師間で児童生徒の情報や授業で活用できる教材等のデータを共有するとともに、同僚のICT活用指導力に応じた助言を行い、教育の質の向上を図っている。
- 地域や関係機関と連携し、教師や保護者、児童生徒の情報モラルの向上に向けた取組を推進している。
- 学校ホームページを利用して、学校の教育方針や教育活動の様子など、情報発信を積極的に行っている。



### ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
同僚のICT活用指導力を高めるため、一人一人の能力に合わせた的確な助言を行っている。			
学校教育目標の実現に向けて、ICT機器を効果的に活用するとともに、情報化を推進する計画立案に参画する。			
保護者や地域、関係機関と連携し、児童生徒の情報モラル教育の推進を行っている。			

# 「学級経営力」

学級経営とは、学校の教育目標・学年目標を受けた学級目標を日々の具体的な実践を通して実現していく学級担任の意図的、計画的、継続的な営みです。そして、究極的には、一人一人の子どもの自己実現を目指すものです。全ての子どもが生き生きと目を輝かせて活動し、満足感や充実感が味わえる支持的風土作りをしていくことが強く求められています。

## 資質・能力発展期

### 指標

**広い視野を持ち、全学年を見通した学級経営を推進する。**

これまでの豊富な経験と継続的な自己研鑽に裏打ちされた優れた教育実践力、同僚や後輩教員の模範となる安定感や信頼感を有した学級経営力が求められています。また、学校教育目標の実現に向けて、教員のリーダーとして、全学年を見通した学級・学年経営が求められています。

【具体的な姿】



- 学校全体のよさや課題について把握し、学校の諸課題を解決するために、率先して他学年との連携を深めている。
- 学年を越えた児童生徒理解に努め、どの児童生徒にとっても安心して学べる集団づくりや授業づくりを学校全体で進めている。
- 同僚が抱える学級経営上の課題や悩みに早期に気づき、適切な助言・指導を行い、範を示しながら課題等の解決に取り組んでいる。
- 日頃から家庭や地域、関係機関との連携を図り、学校への率直な意見や要望を聞くとともに、学校の教育活動への理解や協力を得ている。

### ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
児童生徒の状況を把握し、適時性・系統性のある指導により望ましい学級集団づくりを学校全体で推進している。			
学校教育目標の実現に向けて、全教職員と積極的にコミュニケーションを図り、協働して学級・学年経営に取り組んでいる。			
家庭や地域、関係機関との連携を図り、学級・学年の教育活動への理解や協力を得ている。			

# 「生徒指導力・教育相談力」

生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的な資質や行動力を高めることを目指して行います。また、教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ります。生徒指導力や教育相談力を身に付けることは、児童生徒に自己実現を図っていくための自己指導能力の育成につながると考えます。

## 資質・能力発展期

### 指標

地域や関係機関と連携し、学校全体の課題解決に努める。

学校が抱える課題は多岐にわたり、校内の資源（課題解決のために役立つ人材や施設など）だけでは不足する場合があります。その不足を補うためには、地域や関係機関が持つ資源の活用が必要となります。地域や関係機関との関係づくりを進めることは、課題解決のための資源を増やし、学校の課題解決力を向上させることにつながります。

[具体的な姿]



- 課題に対し組織的に対応するために、若手教員の相談役として話を聞くとともに、組織的な対応につなげている。
- 組織的に課題を解決するため、関係教員や関係機関に呼び掛け、ケース会議等の話合いの場を設けている。
- 課題解決に向けた効果的な組織対応のために、情報を収集し、関係教員が効率的に活動できるように助言している。
- 地域との協力体制を築くために、地域の行事等へ参画したり、地域住民と交流したりしている。
- より専門的な対応の必要性に備えるため、外部の相談機関や医療機関との連絡を密にし、関係づくりに取り組んでいる。

### ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
個々の児童生徒の実態を的確に把握し、若手教員の相談役になっている。			
ケース会議の開催や専門機関への相談など、課題解決に向け、学校の中核として積極的に取り組んでいる。			
日頃から地域や関係機関と連絡を取り合い、関係を密にして、組織的な対応ができる体制づくりを行っている。			

# 「特別支援教育実践力」

障がいのある児童生徒の生活や学習上の困難を改善又は克服するためには、インクルーシブ教育システムの考え方を理解し、適切な指導及び必要な支援をできることが求められます。また、障がい者理解を推進するために、校内外で組織的・計画的に対応する力を身に付けることも重要です。

資質・能力充実期

～

資質・能力発展期

## 指標

支援が必要な児童生徒に組織的・計画的に対応するなど、学校の中核として特別支援教育の推進に努める。

特別支援教育の視点を踏まえた学習指導、学級経営、生徒指導等の実践を蓄積し、校内への普及・継承を進めることが求められます。また、個別の教育支援計画等を活用し、他の教職員や関係機関と連携して支援を推し進めることが重要です。

【具体的な姿】

- 若手教員から、児童生徒への対応の相談があり、児童生徒の困っている背景を推測して、児童生徒本人への対応方法やその保護者への関わり方を助言している。
- 障がい者が日常・社会生活で受ける制限は、心身の機能の障がいのみならず、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものという考え方をもち、障がい理解を校内外で推進している。
- ケース会議で、保護者の考えや本児の実態を踏まえ、合理的配慮を保護者・本人に提案して合意形成を図り、その内容を個別の教育支援計画に明記し、個別の指導計画を作成する際に活用している。



### ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項 目	月日 /	月日 /	月日 /
特別支援教育の視点を踏まえた学習指導、学級経営、生徒指導等の成果を他の教職員に伝えている。			
児童生徒の障がい者理解を促進するために、実践を蓄積し、校内外への普及・継承を進めている。			
個別の教育支援計画等を活用しながら、校内委員会やケース会議で中心的役割を果たしている。			

# 「えひめ人材育成力」

愛媛県では、「愛媛の未来づくりプラン」において、4つの愛顔（えがお）づくりへの挑戦の一つとして、「未来を拓く豊かで多様な『人財』を“育む”」ことを挙げています。学校では、一人一人の児童生徒が愛媛の未来を担い、世界にも貢献できる「人財」となることを目指すことが求められています。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

ふるさと愛媛に誇りと愛着を持たせる教育の実現に努める。  
国際的な視野を養うとともに、地域の課題に目を向け、愛媛の未来を拓く人材の育成に努める。

様々な教育活動を通して、児童生徒が愛媛のよさを理解し、愛媛に誇りを持つことができるような工夫が必要です。また、グローバル化する社会で活躍する児童生徒の育成を図るとともに、地域のよさと課題を明確に捉え、地域のよさを伸ばし、課題を解決しようとする意欲的な態度を育むことが求められます。

[具体的な姿]

- 愛媛の風土、文化、歴史、産業等について、常に最新の情報を収集している。
- 愛媛のよさや課題について理解し、様々な学習活動や体験活動に生かしている。
- 様々な教育活動の中で、国際理解教育の視点を取り入れ、児童生徒の多様な価値観を尊重し合う態度の育成を図っている。
- 世界と地域のつながりなど、児童生徒が広い視野から地域のよさや課題を捉え、よりよい社会をつくろうとする実践的な態度の育成を図っている。



## ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
愛媛の風土や文化、新しい情報などに関心を持ち続け、教育活動に生かしている。			
様々な教育活動の中で、多様な価値観を尊重し合う態度を育成している。			
児童生徒が国際的な視点から地域のよさや課題を捉え、持続可能な社会をつくろうとする態度の育成に取り組んでいる。			

# 「組織貢献力」

組織には、共通目標（組織目標）、協働意識（貢献意識）、コミュニケーションが必要です。学校の教育目標を達成するためには、それぞれの教員が専門性を高め、組織の一員としてその役割に応じて活躍することが求められています。一人一人が組織貢献力を身に付けることにより、一人では達成できない共通の目標を実現することが可能になります。

## 資質・能力発展期

### 指標

**教育活動全般を推進し、次世代の教員を育成する。**

ミドルリーダーとして職務に当たるとともに、次世代の教員の育成も期待される時期となります。広い視野から学校の教育活動全般を見ることを意識し、組織目標の達成のため、リーダーシップを発揮することが大切となります。また、日常の職務を通して、次世代を担う若年教員等の育成も求められています。

- [具体的な姿]
- 学校運営について、自分の意見と推進案を持ち、機会を自ら創り出して管理職に積極的に提言をしている。
  - 管理職のビジョンを解釈し、具体的な方策を教職員に提示するとともに、日々の教育活動における情報を収集し、そこから得られた情報を基に改善策を考え、管理職に提言している。
  - 広い視野を持ち、学校の教育活動全般でリーダーシップやフォローアップを発揮している。
  - 若年教員等次世代の教員の育成を図るため、積極的に活躍の場を与えたり、指導助言をしたりしている。
  - 目標達成に向け、積極的にコミュニケーションをとり、全教職員の貢献意識の醸成を図っている。



### ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
広い視野を持ち、自分の担当する職務だけではなく、学校の教育活動全般を推進している。			
職務を通して、積極的に活躍の場を与えたり、指導助言をしたりして、若年教員等次世代の教員の育成を図っている。			
目標達成に向け、積極的にコミュニケーションをとり、全職員の貢献意識の醸成を図っている。			

# 「学校安全の意識・危機管理能力」

学校の教育活動等においては、児童生徒等の安全の確保が保障されることが、最優先される前提です。全ての学校において、管理職のリーダーシップの下、学校安全に関する組織的な取組を推進するとともに、全ての教職員が、各キャリアステージにおいて必要に応じた学校安全に関する資質・能力を身に付ける必要があります。

## 資質・能力発展期

### 指標

**危機管理体制を点検し、改善への提言を行い、安全意識の向上に努める。**

事件・事故災害が発生した場合、他の教職員をまとめて、状況についての情報収集を行い、正確な報告や対応策の提言を管理職に行うことが求められます。また、教職員の危機管理能力の向上に向けた校内研修を推進することや、地域や公的機関と連携した安全点検や避難訓練におけるPDCAサイクルを機能させ、実態に応じて危機管理マニュアル等の見直しについて提言を行うことなど、学校安全に関する組織的な取組を推進する上で、中心的な役割を担うことが求められます。

〔具体的な姿〕

- 事件・事故災害が発生した場合には、危機管理マニュアルに基づき迅速に対応するとともに、他の教職員をまとめて情報収集を行い、正確な報告や必要に応じた対応案の提言を管理職に行う。
- 地域や公的機関と連携した避難訓練や安全点検におけるPDCAサイクルを機能させ、危機管理マニュアルや学校安全計画等の検証を行い、改善案について提言を行う。
- 学校の施設・設備の安全点検において中心的な役割を担い、危険箇所の除去や事故の未然防止に向けた具体的な提言を行う。
- 学校内外で発生した、重大事故につながる可能性のあった事例を収集し、具体的な対応策について検討を行い、教職員間で共有する。
- 危機管理や安全教育を推進することに関する教職員の資質・能力向上のための研修計画を立案し、実施する。



### ◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
避難訓練において、より効果的な訓練となるよう、課題や改善点を分析し、提言をしている。			
学校内外の危険箇所の把握や事件・事故災害等の事例分析を行い、危機管理マニュアルや学校安全計画の改善案について提言をしている。			
他の教職員の学校安全の意識・危機管理能力の向上に向けた助言をしている。			

# 「協働性・同僚性」

学校における複雑かつ多様な課題に対応するためには、職場の同僚間のチームワークを高め、組織的かつ効果的な対応を行う必要があります。そのため教員は、共通の目的に向かって課題を解決するために協働することが重要です。さらに、協働性を高めていくためには、よりよい職場の人間関係や仲間意識を築き、同僚性を発揮していくことが必要不可欠です。

## 資質・能力発展期

### 指標

人材育成の視点から助言や支援を行い、よりよい同僚性の構築を促す。

これまでの教職経験を生かし、学校教育目標の実現に向けて、学校全体でよりよい人間関係を構築し、同僚同士のチームワークを高める力が求められています。また、日々の教育活動を通して、次世代の教員を育てていく人材育成が求められています。

〔具体的な姿〕

- 教育活動を円滑に進めるため、普段から積極的にコミュニケーションを図り、全体の意見をまとめている。
- 職場の一体感や雰囲気盛り上げるため、率先して行動し、学校の諸課題の解決に向けて、チームで効果的な対応を行っている。
- 管理職の示す目標や方針を、分かりやすく他の教職員に伝えたり、教職員の意見をまとめ、管理職に提言したりと、学校全体の人間関係をつなぐ役割を担っている。
- 若年教員に対して、今までの教職経験を基に、指導技術や教員としての在り方を示し、若年教員の実践的指導力や、人間力向上に向けた助言や支援を行っている。



### ◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
学校全体の良好な人間関係を構築するために働き掛けを行い、学校のチーム力向上に取り組んでいる。			
自分の考えや、管理職の目標や方針を教職員に伝えるとともに、教職員の思いを管理職に伝えている。			
若年教員に対して、積極的に助言や支援を行ったり、指導法や指導技術を伝えたりして、次世代の人材育成を行っている。			

# 「対人関係力」

学校においては、児童生徒や保護者だけでなく、同僚や地域の人々まで広く信頼される教員が求められています。そのためには、自らの考えや学校の方針等を分かりやすく説明するとともに、相手の考えを正確に理解し、組織としてのよりよい方向性を見出すための意思疎通を行っていくことが大切です。

## 資質・能力発展期

### 指標

**連絡・調整の中核となり、よりよい人間関係づくりを進める。**

学校内外が抱える課題を正確に把握し、解決に向けて共通認識を持ち、実際の行動につながる意思疎通の中核的な役割を担うこととなります。そのためには、今までに身に付けてきた対人関係力や学校内外に築いてきた人間関係を活用するとともに、他の教職員に対して適切な指導助言を与えることも必要です。人材の育成や組織の活性化につながる連絡・調整が望まれます。

[具体的な姿]

- 学校内外が抱える教育課題に対する教職員の意見をよく聞き、全体の意見をまとめる。
- 学校教育目標を正確に理解し、参加した校外の研究協議会等において学校を代表して適切に説明する。
- PTA総会や地域集会などで保護者や地域の人々と接するときは、学校に対する意見や要望を出しやすい雰囲気をつくり、しっかりと意見を聞く。
- 他の教職員に対して、人間関係づくりに必要な資質・能力の向上につながる支援を与えている。



### ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
学校内外が抱える教育課題に対する教職員の意見を聞くために積極的にコミュニケーションをとっている。			
校外の活動においては、学校の代表者として信頼されるよう、自らの意見を述べたり、他者の意見を聞いたりしている。			
児童生徒や保護者とよりよい人間関係を構築するために必要な傾聴の姿勢について、他の教職員に指導助言を与えている。			

# 「地域と連携・協働する力」

学校が抱える課題が複雑化・困難化する中、学校は「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域との連携を一層進めていくとともに、地域においても、子どもたちの成長を支える活動に、より主体的に参画していくことが必要です。「地域とともにある学校」への転換を目指していく上で、地域のニーズを把握し、積極的に関わっていくなど地域と連携・協働していくことが求められます。

## 資質・能力発展期

### 指標

**連携・協働した教育活動の実践を通して、地域と学校の課題解決を図る。**

学校・家庭・地域で、地域と学校における課題についての情報を共有することが必要です。地域や学校の課題解決に向けて、地域の人々と話し合い、教育活動を計画・実践します。実践後は、共に改善点を出し合うなどの振り返りを行い、次年度の活動につなげることが重要です。また、地域の活性化や地域の教育力の向上のため、地域と連携した教育活動についての情報発信や情報の共有化が求められます。

[具体的な姿]

- 学校・家庭・地域が話し合う場に参加し、地域や学校の課題について情報を共有している。
- 地域や学校の課題を踏まえて、地域の人々と連携・協働して教育活動を計画し、実践している。
- 実践した教育活動の振り返りを地域の人々を含めて行い、次年度に向けて活動の改善策を提案している。
- 地域と連携・協働した教育活動について、ホームページや学校通信などを通して、情報発信を行っている。



### ◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
地域や学校の課題について、地域の人々と情報を共有している。			
地域や学校での課題を踏まえて、地域の人々と、連携・協働した教育活動を計画・実践し、その振り返りを行っている。			
地域と連携・協働した教育活動について情報発信等を行い、地域と学校をつなぐ役割を果たしている。			